
平成 28 年度

市川市新庁舎建設

市民ワークショップ報告書

平成 29 年 3 月

市川市新庁舎建設課

目 次

1. はじめに	P.1
2. 平成 28 年度市民ワークショップ成果報告	P.2
(1) 運営体制の考え方について	P.2
(2) 各エリアの機能について	P.3
(3) 市民活動支援スペースで開催する イベントのアイデアについて	P.6
3. 平成 28 年度市民ワークショップ概要	P.7
4. メインファシリテーターからのコメント	P.9
付属資料 市民ワークショップ通信 vol.10~13		.

1 はじめに

市では現在、本庁舎の老朽化などにより新庁舎建設事業を進めています。

平成 32 年度に供用を開始する新第 1 庁舎には、市民同士の交流を促し市民活動を醸成する場として、「市民活動支援スペース（仮称：協働テラス）」が整備されます。

そのため、平成 26 年度より、実際に当スペースを利用する市民の方の意見を計画に反映するために市民ワークショップを開催し、初年度には市民活動支援スペースを中心とした市民スペースの「コンセプト」と「配置計画」を検討し、平成 27 年度には「協働のあり方」に関して議論を行い、「協働の理念のキャッチコピー」と「協働の基本的な条件」について考えました。

今年度は当スペースの使い方や課題を話し合い、今後具体的なルール等を定めていく上での基礎となる「運営体制の考え方」について方向性を定めたものです。

全 4 回のワークショップの成果である「運営体制の考え方」と、運営体制を検討するにあたってアイデアを出し合った「各エリアの機能」および「市民活動支援スペースで開催するイベント」についてを本報告書としてまとめ、市川市庁舎整備庁内検討委員会への報告を行うとともに、関係課における運営計画の検討の基礎資料として活用をまいります。

市民ワークショップ事務局
（新庁舎建設課）

2 平成 28 年度市民ワークショップ成果報告

(1) 運営体制の考え方について

市民活動支援スペースの運営は「行政」「運営組織」「運営協議会」の3つのセクションを設けた体制で行うことについて検討されました。「行政」はハード面の管理を行い、ソフト面については「運営組織」に委託し、定期的に行われる「運営協議会」にて運営に関する調整を図るものです。

それぞれのセクションの検討結果は下記のとおりとなりました。

運営組織

- ・市民活動支援スペースで開催するイベントや各スペースの運営（予約受付・使用方法の案内等）を行うもの。
- ・運営組織は市民や市民活動団体ならびに NPO 法人等が携わるものがよい。
- ・新たな NPO 法人を立ち上げることも考えられるのではないかな。
- ・市民活動支援スペースの各エリアを一括して運営することが望ましい。
- ・一定の枠組み（予算等）の中で自由に運営できるようになるとよい。

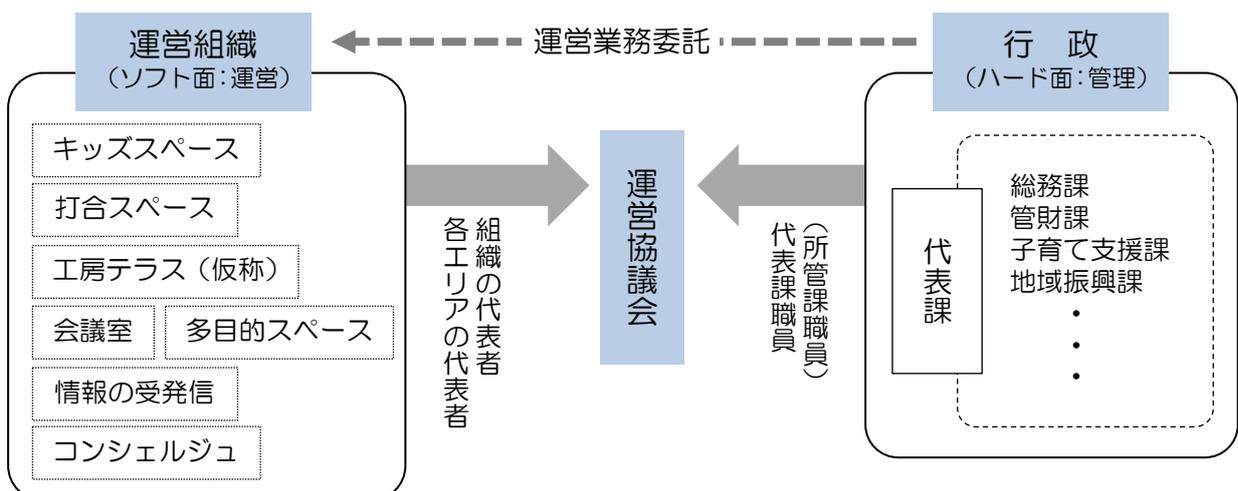
行政

- ・ハード面（設備、清掃、警備等）の管理を行うもの。ソフト面は運営組織に委託する。
- ・委託の際には、代表となる課が各エリアの所管課をとりまとめる形で運営組織との契約を行うことが想定されるが、1 課が複数課の意見を集約して運営組織と円滑に協議を行うことができるか、行政側での検討が必要となる。
- ・運営組織と行政が一方通行にならない関係性となるよう、行政側の対応体制について考えることも課題である。

運営協議会

- ・運営組織とは別に、運営組織の代表と行政が定期的に協議を行う会を設けると良い。
- ・運営組織がエリアごとに分かれる場合は、各エリアの代表者を選出し、意見交換を行う。
- ・運営協議会には市民活動支援スペース利用者や様々な人が参加し、意見を募ることが望ましい。

▼運営体制の概要イメージ図



(2) 各エリアの機能について

エリアごとにどのような使い方をしたいか検討しました。どのエリアからも、情報交換や交流を促すしくみが必要であるという意見が挙げられました。また、利用のルールに関しては、市民の自主性と責任を重んじ、制約に縛り過ぎないことが望まれました。

エリアの運用にあたっては市民や学生の参画が必要とされ、それにあたって適切な賃金が支払われることが求められました。

さらに、市民活動支援スペース利用者への対応だけでなく、各エリアのつなぎ役や行政との橋渡し役として「コンシェルジュ」が大きな役割を果たすことになるという議論がなされました。

2階 キッズスペース

○機能

- ・保護者が窓口で用件を済ませている間の一時預かりの場を設けられないか
- ・子ども1人でも安心して遊べる場となるとよい
- ・待ち時間にのびのびと遊べる空間となるような工夫が必要
- ・キッズスペースと執務室がオープンなので、子どもの声を遮る壁などが必要ではないか

○情報交換

- ・子育て情報の交換ができるしくみがほしい
- ・口コミ的情報や市政（教育委員会や子育て関係）の情報を掲示したい

○交流機能

- ・保護者同士の交流ができる場がほしい
- ・育児の悩みを聞いてくれる話し相手がいると良い
- ・親子で参加できるイベントを実施できたら良い

2階 打合せスペース

○機能

- ・無線LANやwi-fiが整備されると良い
- ・3階の打合せスペースと異なり、予約や登録不要で誰でも使える場となると良い

○ルール

- ・状況に応じて変更が可能な「ゆるい」ルールや環境作りが必要
- ・市民のモラルと自主性を重んじ、あまり制約を設けすぎないことが望ましい

2階 カフェ

○機能

- ・市役所に用事がなくても、打合せやおしゃべりの場として集える場としたい
- ・カフェでコンサート等のイベントを開催し、イベント時の飲酒を可としたい

○交流・情報発信

- ・カフェを訪れた人同士が交流できるしくみがあると良い

- ・市民団体の情報誌等が置けるスペースを設けたい

○運営

- ・障がい者団体や学生などがカフェの運営に携われないか

3階 打合せスペース（市民活動団体・自治会優先利用）

○機能

- ・インターネットでの予約受付や空き状況の確認ができるが良い
- ・後片付けと掃除をすることを前提に飲食可としたい
- ・天井にピクチャーレールを設置し、パネル等の展示ができるが良い
- ・自由に使える打合せスペースと、要予約の打合せスペースが視覚的に分かり易いよう、床の色を変えるなどの工夫があると良い

○交流・情報発信

- ・打合せをしている団体に声をかけやすい雰囲気づくりを目指したい
- ・伝言板やメモが書ける予約状況掲示板を使って交流を促せると良い
- ・市民活動団体のパンフレットやイベントのチラシが置けるラック等の掲示スペースがあると良い

3階 工房テラス（仮称）

○機能

- ・ボランティア・NPO 活動に必要な機材や備品がそろっていると良い
- ・市民活動についての相談受け付けがあると良い
- ・団体でも個人でも利用しやすく集える場にしたい
- ・作業の場としてだけでなく会議や打合せにも利用できることが望ましい
- ・市民活動団体が活動内容を紹介する掲示スペースがあると良い
- ・作業中に利用できる流し台（洗面台）があると良い
- ・印刷室と工房テラス内打合せスペースとの行き来がしやすいよう、間口の大きな扉があると良い

○交流

- ・月ごとにテーマを決めた勉強会などを開催できると良い
- ・多目的スペース等と連動し、定期的に交流イベントを開催して他分野の団体同士の交流を促してはどうか

3階 多目的スペース、2・3階 会議室

○機能

- ・wi-fiが整備されると良い
- ・会議室や3階打合せスペースと同じ窓口で予約ができると利便性が高まる
- ・他施設（公民館等）と差別化し、市庁舎にある特性を活かせる用途で使用すると良い
- ・子どもや学生が利用しやすいルールが定められると良い

- ・最低限の制限のみ設け、利用者の責任と自主性を重んじるルール作りが望ましい

○用途

- ・多目的スペースでの展示物と連動したフォーラムや交流会等を会議室で開催できると良い
- ・ボランティア・NPO 活動団体のプレゼン大会を行いたい

4 階 情報の受発信

○発信内容

- ・行政の情報だけでなく、NPO やボランティア団体の情報も発信できるとよい
- ・市川市のいいところ（観光情報等）を発信する

○発信方法

- ・デジタルサイネージの活用ができるとよい
- ・SNS 等を活用し、多世代が求めている情報を的確に発信する工夫を行えるとよい
- ・市民発の情報の掲示の可否について選定を行う人が必要か

コンシェルジュ

○役割

- ・ボランティア・NPO に関するコンシェルジュがいるとよい（申請や講演依頼等のやり方を教えてくれたり、市民活動に興味がある市民と団体とのつなぎ役となる）
- ・市民活動支援スペース全体の対応を行い、市民と行政との橋渡し役となるコンシェルジュがいるとよい
- ・市民活動支援スペース各フロアの案内や対応をするコンシェルジュ（仮称：フロアコーディネーター）が欲しい
- ・市川市の情報（観光など地域の情報等）を教えてくれるコンシェルジュがいるとよい
- ・コンシェルジュが縦割的な行政をつなぐ横串の役割を果たせると良いのではないか

○運営について

- ・コンシェルジュには一部に大学生を起用したい
- ・案内や相談業務の円滑化のためにコンシェルジュが市民活動支援スペースの運営にも携わるとよい

その他

- ・学生が運営に参加してもらうためには、大学の単位になることも考えられるが、相応の賃金を支払うことが必要だと思う
- ・行政と市民が同じ目線（同じテーブル）で、同じ立場になって話し合えることが必要

※詳細な提案内容については付属資料下記ページを参照ください。

- 市民ワークショップ通信 vol.10 P.6～13
- 市民ワークショップ通信 vol.11 P.2～7、10～15
- 市民ワークショップ通信 vol.12 P.4～11
- 市民ワークショップ通信 vol.13 P.6

(3) 市民活動支援スペースで開催するイベントのアイデアについて

市民活動支援スペースが継続して人が集まる場となるよう、スペースを利用して開催するイベントのアイデアを考えました。

- オープニングイベント
見学イベント、市民参加型餅まき
- 子どもや子育て世代に向けたイベント
子どものまち（ミニいちかわ）、市川市文化子どもフェスティバル、昔話の読み聞かせ、英会話、ママと子どもの子育て相談会、議場体験
- カフェスペースを活用するイベント
市民によるカフェ体験、議員と話ができるカフェ、哲学カフェ、交流会
- 国際交流に関わるイベント
ローゼンハイムの子どもを招待しミニ大使館を作る、国際音楽祭、国際交流会議、姉妹都市紹介イベント
- 講座や講習会
工房体験、パソコン講座、困りごと相談会、歌、朝活、ヨガ、市内企業就職説明会
- 市民が交流できるイベント
シニアファッションショー、障がい者の方と一緒に遊んだり体操をする、豆まき、婚活パーティ、ハロウィーン、アニメやゲームのイベント
- 市川市のPR
フラワーフェスタ、特産物のレシピ紹介や料理教室、選挙の期日前投票の際に市民アンケート
- ボランティア団体のPR
ボランティアNPOフェスティバル、行政主催のイベントの際に関係団体のPR活動、クロマツ植樹
- 市民が企画運営するイベント
学生が企画するイベント、2～4階を全て使ったイベント、地域のイベントとの連動

※詳細な提案内容については付属資料下記ページを参照ください。
市民ワークショップ通信 vol.13 P.12～15

3 平成 28 年度市民ワークショップ概要

(1) テーマ

市民活動支援スペース（仮称：協働テラス）の運営について考えよう

(2) 開催結果

開催日時		議 題
第 1 回	平成 28 年 10 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動支援スペースをどのように使いたいか考えよう 使い方に対する課題を挙げよう
第 2 回	平成 28 年 12 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決策を考えよう 課題を解決するための運営方法を考えよう
第 3 回	平成 29 年 1 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> エリアごとの使い方を整理しよう 使い方や運営を具体化しよう
第 4 回	平成 29 年 3 月 4 日	<ul style="list-style-type: none"> 運営体制を考えよう 人が集まるイベントや企画を考えよう

(3) 参加者名簿

■参加者

(敬称略 50 音順)

公 募	荒井 由里	岡本 博美	神戸 洋子
	清澤 拓治	斎藤 雅敏	佐藤 信彦
	式場 敬子	高木 彬夫	田嶋 芳恵
	田尻 勇翔	田中 アイアン	徳田 寿莉阿
	早川 良美	原 貴幸	前原 紗樹
	安田 俊也	吉野 修治	リエナール フランソワ
	団体推薦	市川市自立支援協議会	
特定非営利活動法人いちかわ子育てネットワーク			幸前 文子
//			渡慶次 康子
市川市自治会連合協議会			阿部 純三
//			齋藤 道子
学 生	千葉商科大学	大石 果菜	
	和洋女子大学	日吉 瑞希	
	東京経営短期大学	大須賀 真歩	

■メインファシリテーター

千葉大学大学院園芸学研究科 教授 木下 勇

■職員ファシリテーター

メインファシリテーターである木下勇教授を講師に迎え、全3回の日程で開催された「職員ファシリテーター研修」を受講した職員が全体進行を務めるとともに、グループでの議論に参加しました。

総務部	総務課	長田 憲明
企画部	企画課	杉山 育子 笠 真由美
	行財政改革推進課	山室 繁央 川田 慧
財政部	管財課	櫻井 順一 吉田 直弘
市民部	地域振興課	小嶺 由佳子 小嶋 啓太
	ボランティア・NPO 課	佐久間 剛 矢萩 淳史
こども政策部	子育て支援課	大沼 洋子
街づくり部	新庁舎建設課	吉田 憲 三橋 裕子
生涯学習部	中央図書館	小川 健太郎 齊藤 都

■事務局（新庁舎建設課）

瀧上 和彦、高橋 均、品川 貴範、松山 直樹、三浦 善信、鶴見 陽助、戸川 隼一、有田 佳乃子、土屋 成祥

4 メインファシリテーターからのコメント

今回は協働テラスの運営体制について検討することで4回のワークショップを行なったが、運営の体制をつくりあげることが、そう簡単ではないことは最初から覚悟していた。しかしながら、市民の積極的な提案で、おぼろげながらも方向性が見えてきたような実りあるワークショップとなった。今年は中学生が1名、大学生も3名参加してくれて、年齢の幅も広がり、多様な意見も、暖かい空気に包まれ、集団の創造力が発揮されて方向性が形成されたように思われる。

そのようにワークショップは一つの船に多くの人と乗っているような感覚にさせてくれる。協働の漕ぎ手は市民だけではない、行政の人も、同じ方向を向いて漕がないと船は目的の地に辿りつかない。その目的の地は新市庁舎の協働テラスの運営。それは、他の市町村よりも進んだ、市川ならでの市民と行政の協働の活動、市政が展開され、新しい協働の文化としての市政が展開される到達点である。

市役所職員がファシリテーターとなって市民とともにワークショップを行うのは2年目となる。前回よりは緊張感もとれて、和やかに進行が進んだようにみられる。それもまた、市民の積極的な参加に支えられている点もあるが、職員の理解の浸透もあろう。研修も兼ねているとはいえ、市民の力に驚き、また和やかに話をして、普段の行政職員の顔と異なる表情も見せる。欲をいえば、行政マンの仮面をとって、もっと個人、個性を出してほしいと、横にいながら思う時もある。市民の方々にはもっと行政の方も参加して、一緒に考えてほしいという意見を言われる方もおられる。

今回のように具体的に運営を考える時は市民の文化と行政の文化がぶつかる事態もあり、そのときにファシリテーターとしての役割と、行政の立場とをどう使い分けるか、その点が課題となるところであるが、それこそが、市民の声を聞くことができる、協働を担う職員としての能力を高めていく研修の核心的部分とも言える。もし次回もあるならば、その点を強化して、より市民と行政がこのように集団創造の力を発揮する、そういう協働の文化の定着に近づいていくことを期待したい。

みなさま、おつかれさまでした！

■ きのした いさみ 木下 勇

千葉大学大学院園芸研究科 教授（専門 都市計画）

著書に『ワークショップ～住民主体のまちづくりへの方法論』等。職員ファシリテーター研修講師および、本ワークショップメインファシリテーター役を務めた。